



Learning from Action

アクションから学ぶ

Decision-Making processes and Accountability
意思決定のプロセス & ことばで説明すること

主催：治療共同体について考える会・京都集団療法研究会
共催：一般社団法人 日本集団精神療法学会
学術協力：Il Nodo Group (Italy)

重篤な心理的問題を抱えたクライアントと仕事をする皆さまへ

LfA Japan 2017のご案内

－ 治療共同体のメンバー体験を通して「アクションから学ぶ」－

入院や入所、あるいはデイケアなどの通所施設で、重篤な心理的問題を抱えるクライアントと仕事をする人にとって、クライアント、スタッフ、そして組織との、意識的かつ無意識的コミュニケーションについて考えることはとても重要です。生活を共にするような治療的コミュニティの中では、複雑な対人的相互作用が生じ、そこには個々のクライアントの治療に役立つ素材が溢れていると言えます。

個人精神療法や集団精神療法などの専門的治療法のみではなく、治療的コミュニティでの様々なアクティビティを通して作られた関係に潜む、無意識的コミュニケーションは特に重要です。重篤な心理的問題を抱えるクライアントは、「ことば」よりも「アクション」で多くを表現すると考えられるからです。「アクション」とは、意識的な振る舞いと無意識的で意図していない振る舞いの双方を意味しています。

Learning from Action Working Conference (以下 LfA) は、治療共同体で働くスタッフのトレーニングのために考案された体験型のワークショップです。治療共同体は、日本ではなかなか根付きにくい考え方でありアプローチ法ですが、一定の時間と場所をメンバーとスタッフが共有するグループ志向の治療法が、環境や個人にいかにか強い影響力をもたらすかを、わたしたちは再考する必要があるのではないのでしょうか。

わたしたちは、日本において、集団精神療法のトレーニングとして体験グループでメンバーとなる機会を持つことができますが、一時的に作られたコミュニティ a Temporary Learning Community、つまり「体験コミュニティ」のメンバーになり、自分自身のアクションを通じた無意識的なコミュニケーションを探索するというトレーニングの機会をもつことはありませんでした。しかし、これこそわたしたちが治療・援助しようとしている重篤なクライアントのコミュニケーションを理解するためには必要なことだと考えます。

更に、施設や組織という「集団がもつ力」と「集団が抱える不安」を同時に理解した上で、集団に能動的に関わる能力を身に付けることがわたしたちに求められています。

LfA Japan 2017の事務局である川合と古賀は、2014年にイタリアで開かれたLfAに初めて参加し、その重要性や有用さを認識しました。そして、2年が経過した今、岡山においてLfA Japan 2017を開催すべく準備を進めています。

今回、イタリアで長年LfAのディレクターを務めてきたLuca Mingarelli、事務局としてLfAをマネジメントしてきたSimona Masnata、そして、LfAの考案者のひとりであり、かつてAssociation of Therapeutic Communitiesの代表を務めたイギリスのRobert Hinshelwoodが来日し、わたしたちと体験を共有し、一緒にそれを探究します。

LfA Japan 2017に参加することは、皆さんにとって有益な体験となるに違いありません。皆さんの参加をこころよりお待ちしております。

2017年1月吉日

LfA Japan 2017 事務局

川合裕子 古賀恵里子

※次ページ以降は、Il Nodo Group が作成し、LfA 2016 で使われたパンフレットを、川合と古賀が日本語に翻訳したものです。

方法論 – アクションから学ぶ –

2000年初頭に Robert D. Hinshelwood と Enrico Pedriali が協同して治療共同体で働くスタッフのトレーニングとしてLfAを考案しました。

LfAは、イギリスのタビストック人間関係研究所のグループ・リレーションズ・モデル (www.ilnodogroup.it) を参考にしています。そして、日々のアクティビティの中で作られた**関係**の意味を、参加者が自分の体験を通して探索し、かつ注意深く観察することができるように援助することを目的としています。

最も重要な課題

一時的に作られた体験コミュニティにおいて、無意識的で非言語的なコミュニケーションが、いかに意思決定のプロセスを方向づけるか、そして、それを「ことばで説明すること」accountability、多様な状況で「一緒に作業すること working together」にどのように影響を与えるかを探索する機会を提供することが最も重要です。

参加者は、LfAの間、生活を共にし、コミュニティを作ることを通して、入居あるいは入居に準じた施設、より広くは精神保健福祉分野の施設で働く全ての人にとって基盤となる能力を直接的に学び身に付けることができますでしょう。

このような能力は、看護師、臨床心理士、心理療法士、精神科医、ソーシャルワーカー、教育者、マネージャー、コンサルタントなど、広い範囲の専門家にとって非常に価値があります。

主な目的は、組織や施設が暗に抱える問題、個人レベルと集団レベルでの意思決定の過程に影響を与える意識的かつ無意識的ダイナミクスについて参加者の理解を深めることです。

そして同時に、アクティビティの中であらわれるアクションから何を学ぶことができるのかを参加者自身がリフレクトすることです。

参加者は、特に、非言語的で無意識的なコミュニケーションをリフレクトしながら、自分は全体のシステム（コミュニティ）の中でどのような役割をとっているのか、そして全体のシステムのためにどのように行動しているのかを探索する機会をもつことができますでしょう。そして、コミュニティでの日々の生活や関係の中で役割をもちつつ貢献すること、つまり、責任を伴う任務 responsibility を果たすように促されます。

参加者とスタッフは、**アクション、考えること、そして学ぶこと**の多様な特質や、それそれの間の結びつきを探索します。そうして得られた理解が、参加者が働く様々な職場や実践に移しかえられ、適用することが可能となるのです。

LfAは、健康的な施設における民主的な実践とは何なのか、更には、有用な資源を全ての環境で持続的に利用可能にするものとは一体何なのかについて参加者がリフレクトできる機会です。ここでは、全てが体験を通じた学習であり、それはアクションによってもたらされます。机の上での勉強や講義はありません。

個人として、そしてグループとして、計画し実践すること、共有すること、一緒に生活すること、そしてリフレクトすることに取り組んで下さい。

LfA は宿泊型のトレーニングです。

宿泊は、2人から3人の相部屋です。自分の空間は整理整頓し、共同生活の基本的なニーズに対処できるように心掛けて下さい。

参加者は全てのプログラムに参加する必要があります。

体験のプロセスを促進させるために、前もってパンフレットを注意深く読んでおいてください。

共有スペースの清掃、レジャー活動の計画実践、そして、それ以外にもLfAで認められた活動などの課題を遂行するという目的をもって集団が形成されます。そこでは、実際のコミュニティや施設と同様に、責任を与えて任せる、意思決定をする、権威やリーダーシップと関わる、個人と個人そしてグループ内の関係をマネージメントする、人材をうまく使う、あるいは無駄にするなどのように、一緒に住むことと共有することについての対人的な力動が展開されるでしょう。

このような学習目的を達成するために、「**アクションから学ぶ**」という方法論を用います。全体ミーティング（オープニング/クロージング）、アクティビティグループ編成のための全体ミーティングと各アクティビティグループでのミーティング、アクティビティ、コミュニティ・ミーティング（モーニング/イブニング）、レビューグループとアプリケーショングループ、そして必要な時には緊急ミーティングと、多くのプログラムで構成されています。

参加者には、それぞれのプログラムと課題、そしてコミュニティのルールについて記載された書類が予め渡されます。

★使用言語は日本語と英語です。

★強い情緒的あるいは心理的なストレスにさらされた状況の人は、今回のLfAへの参加は控えられた方が良いでしょう。

TIMETABLE

8月4日（金）

12:30–13:00	受付/Welcome and registration (coffee and snack included)
13:00–14:00	全体ミーティング（オープニング）/Opening Plenary
14:00–14:30	チェックイン /Check in
14:30–16:00	アクティビティグループ編成のための全体ミーティング/Decision-Making Event
16:00–16:30	休憩 /Break
16:30–17:30	各アクティビティグループでのミーティング /Decision-Making Groups
17:30–19:00	アクティビティ 1 /Activities 1
19:15–20:15	イブニング・コミュニティミーティング /Evening Community Meeting
20:30–21:45	夕食 /Dinner
21:50–22:30	コミュニティレジャータイム /Community Leisure Time

8月5日（土）

08:00–09:00	朝食 /Breakfast
09:00–10:00	モーニング・コミュニティミーティング /Morning Community Meeting
10:00–10:30	各アクティビティグループでのミーティング /Decision-Making Groups
10:30–11:00	休憩 /Break
11:00–12:45	アクティビティ 2 /Activities 2
12:45–14:15	昼食 /Lunch
14:15–14:45	各アクティビティグループでのミーティング /Decision-Making Groups
15:00–16:40	レビューグループ /Review Groups
16:40–17:00	休憩 /Break
17:00–18:00	イブニング・コミュニティミーティング /Evening Community Meeting
18:00–19:45	アクティビティ 3 /Activities 3
19:45–21:30	夕食 /Dinner
21:30–22:10	コミュニティレジャータイム /Community Leisure Time

8月6日（日）

07:00 – 08:00	朝食 & チェックアウト* /Breakfast & Check out
08:00 – 08:45	モーニング・コミュニティミーティング /Morning Community Meeting
08:45 – 09:15	各アクティビティグループでのミーティング /Decision-Making Groups
09:15 – 09:30	チェックアウト* /Check out
09:30 – 10:45	アプリケーショングループ 1 /Application Group 1
10:45 – 11:45	アクティビティ 4 /Activities 4
11:45 – 12:45	昼食 /Light Lunch
12:45 – 13:15	食器片付け & 共用部分の掃除 /Washing up & communal cleaning
13:15 – 14:15	アプリケーショングループ 2 /Application Group 2
14:30 – 15:30	全体ミーティング（クロージング） /Final Plenary
15:30 – 15:45	お別れの時間 /Leave-taking

*チェックアウトは9:30までにお済ませください。すべての荷物を客室から運び出してください。

★必要に応じて、スタッフがプログラムの変更を行う場合があります。変更があった場合は、LfA の開始前、期間中に随時お知らせします。

各プログラムの課題

全体ミーティング（オープニング）：LfA Japan 2017 への正式な入り口です！

課題：バウンダリーを超えることについて考える。

アクティビティグループ編成のための全体ミーティング

課題：アクティビティ（料理、掃除、レジャー）グループを編成するための意思決定と、それらを説明する責任について考える。

各アクティビティグループでのミーティング

- 課題1：アクティビティの計画
- 2：グループを用いた決定について学習すること
- 3：役割と責任、それらを行行使する権威（オーソリティ）をもつ体験
- 4：異なるアクティビティグループ間の相互のつながりの探索

アクティビティ

課題：ひとつのサブグループとして、そして、他のサブグループとの関係において、様々な様式で他のメンバーと一緒に作業することについてのリフレクションと学習を促進させる。

モーニング・コミュニティミーティング

課題：コミュニティへの所属感やアイデンティティの感覚を、感情、情緒、予期していること、夢などを通して、今ここで探索すること。

イブニング・コミュニティミーティング

課題：その日のアクティビティ、自由時間、そして、グループ内あるいはグループ間であられた緊張や葛藤を探索する。

レビューグループ

課題：LfA Japan 2017 の間の参加者それぞれの体験、学習、役割をリフレクトする。

アプリケーショングループ

課題：LfA Japan 2017 の間の学習と、それをそれぞれの参加者の臨床現場で応用できる可能性をリフレクトする。

全体ミーティング（クロージング）：LfA Japan 2017 の正式な出口です！

課題：別離の過程について考える。

緊急ミーティング

課題：LfA Japan 2017 中にルール違反やアクシデントが起こった場合には、そのことについて話し合い、リフレクトするために、ディレクターの判断で召集されます。

スタッフ

Director: **Luca Mingarelli (Italy)**

心理士・青年期のための治療共同体 Rosa dei Venti Foundation 創立者兼ディレクター・Il Nodo Group 代表・Mito & Realta 理事・OPUS メンバー・イタリアの Group Relations Conference である Authority, Leadership and Innovation (ALI) のスタッフ (2006～)・International Network of Democratic Therapeutic Communities 創立メンバー。
著書 “Difficult Adolescents” , Ed. Ananke. 2009.

Associate Director & Scientific Consultant: **Robert Hinshelwood (England)**

精神科医・精神分析家・キャッセル病院のクリニカルディレクター (1993-1997)・Fellow, British Psycho-Analytical Society・Fellow, Royal College of Psychiatrists・エセックス大学精神分析センター (UK) 名誉教授。
著書『クライン派用語事典』(誠信書房)『クリニカル・クライン』(誠信書房)
“Thinking about Institutions” (2001) “Countertransference and Alive Moments- Help or Hindrance- “ (2016) など多数。

Consultant: **Simona Masnata (Italy)**

治療共同体セラピスト・組織管理コンサルタント・Il Biscione SCS Onlus 管理者・Fenascop Nazionale 事務局・エンタープライズコンテンツマネージャー・イタリアの Group Relations Conference である ALI スタッフ (2012～2015)・Il Nodo Group 財務担当

事務局: **川合裕子 (Japan)**

臨床心理士・大阪精神医療センターデイケアセンター

事務局: **古賀恵里子 (Japan)**

臨床心理士・大阪経済大学人間科学部准教授・一般社団法人 日本集団精神療法学会理事・グループサイコセラピスト (認定スーパーバイザー)

通訳

北原祐理 (Japan)

東京大学大学院 教育学研究科 臨床心理学コース 博士課程

他 1～2名 (交渉中)

時間の枠組み

LfA JAPAN 2017 の開催時間は、**8月4日(金)13:00~8月6日(日)15:45** です。

参加者は時間を厳守してください。8月4日(金)の受付時間に間に合うようにお越しください。部屋の割り振りは、当日の受付時にお伝えします。チェックインは 14:00~14:30 の間に行います。8月4日(金)の昼食は含まれていません。コーヒーと軽食のみです。チェックアウトは、8月6日(日)の 9:30 までにお済ませください。

参加費

- 参加費：65,000 円 (宿泊費、食事費込み)。
- 参加申込期限：2017 年 7 月 1 日

開催地：岡山県岡山市

岡山市は、岡山県南部に位置し、南北に流れる旭川は瀬戸内海に流れ込みます。日本3大名園として知られる後樂園、漆黒の城と呼ばれる岡山城があり、「桃太郎」で有名な場所です。また、LfA JAPAN 2017 開催中には、会場の近くで夏の最大のイベントである「おかやま桃太郎まつり」(花火大会・うらじゃ踊りなど)が催される予定です。



会場：アジアの風宿泊研修センター

アジアの風宿泊研修センターは旭川のほとりに位置し、岡山城、後樂園まで2 kmの場所にあります。5階建の建物で、2階がコミュニティ活動の中心になります。ミーティングルーム、食堂、キッチン、レジャーに使用する部屋はすべて2階にあります。



アジアの風宿泊研修センター：
〒700-0841
岡山市北区舟橋町 2-10
Tel/ 086-234-8030
Fax/ 086-234-8006



USEFUL LINKS

アジアの風宿泊研修センター www.asianwind.jp

岡山市の観光・コンベンション情報サイト www.okayama-kanko.net/index.php

主催団体

治療共同体について考える会 www.reflective-tc.jimdo.com

この会は、2016年1月に大阪で、川合裕子と古賀恵里子が始めました。20名を越すメンバーで構成され、その職種は臨床心理士、PSW、OT、看護師、精神科医、大学院生と多様です。大阪経済大学で定期的（年8回程度）に集まりを持ち、精神科病棟、デイケア、その他の施設が、より精神療法的になるための環境について考えを巡らせています。2016年度は、自分自身の臨床実践、患者との関係、スタッフと患者との関係などをリフレクトしながら、治療共同体のCore Valuesについて学び、話し合いました。

京都集団療法研究会

この研究会は、1993年7月に京都で開始されました。代表は田原明夫（精神科医）、事務局は藤信子（臨床心理士）、吉村安隆（PSW）です。

研究会のプログラムは以下の通りです。

1. 事例検討会：隔月開催。グループスーパービジョンという形で、一つのケースについて検討します。
2. ワークショップ：
2日間の体験グループ（メディアングループ、年1回）
災害とメンタルヘルスのためのグループ（年1回）
3. 訓練コース：グループ体験（小グループ、月1回）
4. 文献抄読会：月1回

共催団体

一般社団法人 日本集団精神療法学会 www.jagp1983.com

学術協力

Il Nodo Group (Italy) www.ilnodogroup.it

Il Nodo Group は、多様な領域のコンサルタントによって構成された団体であり、グループや組織のダイナミックスを用いて研究する倫理的で民主的なアプローチへの熱意を共有しています。その中心的な使命は、横断的な学問の能力と技術を育むために、保健福祉、企業、教育、慈善事業、公共管理部門の様々な専門家間の学術的な協力を推進することです。

Il Nodo Group は、Tavistock institute of Human Relations と協力し、1998 年以来毎年、宿泊型の Group Relations Conference “Authority, leadership and innovation” (ALI) のスポンサーおよび主催をしています。また、グループ・リレーション・イベントとしての LfA と The international GRC ECW (Energy, creative collaboration and well-being in organisations) も主催しています。

更に、変化の手段として、かつ成長しより良く生きるためのサポートとして、個人、グループ、施設、社会における意識的そして無意識的關係についての探索と理解を推進することを主要な課題としています。

PARTNERSHIPS

FENASCOP - www.fenascop.it

Fondazione Rosa dei Venti Onlus - www.rosadeivent.org

Itgip 東京集团精神療法研究所 - www.muse.dti.ne.jp/~itgip/

Kypseli - www.hagap.gr

Mito & Realta - www.mitoerealta.org

Mulberry Bush Organization - www.mulberrybush.org.uk

Thalassa HAZ-Budapest - www.thalassahaz.hu

IL NODO GROUP



Fondazione
Rosa dei Venti Onlus



お問合せ・申込み

- **すべてのお問合せ（会場、宿泊施設についてを含む）は、LfA Japan 2017 事務局までメール（reflective.tc@gmail.com）でお願いします。**
件名に「LfA Japan 2017」とご記入ください。

- **参加のお申込みは、以下の手順でお願いします。**
 1. 治療共同体について考える会のホームページ www.reflective-tc.jimdo.com から「参加申込みフォーム」をダウンロードして、必要事項をご記入ください。
 2. 「参加申込みフォーム」をメールに添付して事務局（reflective.tc@gmail.com）まで送信してください。
 3. 事務局から受付メールをお送りします。記載されている振込先に、参加費をお振込みください。
 4. 参加者の皆さまには、必要な情報を随時メールにてお送りしますので、ご確認ください。

- **申込み期限は、2017年7月1日（土）です。**
先着順で受付をします。定員（25名）になり次第、受付を終了させていただきます。お早めにお申込みください。

LfA Japan 2017 事務局
担当: 川合裕子
連絡先 Email: reflective.tc@gmail.com

《追記》

- ◇ LfA についての研究を深めるために、将来、この取り組みについて論文等で発表する可能性があることをご了解下さい。尚、その際には参加者個人が特定されることがないように留意することをお約束します。